
ダメ係長

山中幸盛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダメ係長

【Nコード】

N7138U

【作者名】

山中幸盛

【あらすじ】

職場にダメ係長がいて、彼はどうやらアスペルガー症候群らしい。

*（お断り）このショートショートは、山中幸盛のブログ「妻は宇宙人」に掲載されているものと同じのものです。

名倉憲也の職場に、いかんともし難いダメ係長がいる。彼は明るく生真面目な性格で行動力もあるのだが、いかんせん一生懸命やればやるほど職場を混乱させてしまうのだ。

憲也は彼のことをアスペルガー症候群と確信している。おそらく広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）の中でも知能が高く、記憶力が優れているから係長試験を易々と合格してきた人なのだ。仮にそう『診断』すれば彼の行動がすべて納得できる。例えば、最近でもこんなことがあった。

憲也が昼休みに弁当を食べ終えて汁椀とマイ箸を洗いに行くと、彼が弁当箱を洗っていた。すると彼は「どうぞ」と体を横にずらして場所を空けてくれた。そして黙々と自分の弁当箱を洗い続ける。「どうも」と憲也は蛇口をひねって汁椀と箸をお湯で流したが、いかんせん洗剤をつけるスポンジが一つしかなく、そのスポンジは彼の手にしっかりと握りしめられている。普通ならスポンジごと譲って「どうぞ」と言うべきなのに、彼はそのことに気づかないのだ。このことは、「相手の立場で物事を考えられない」「相手の気持ち解らない」という自閉症者の特質に符合する。

また、同僚の一人からこんな話も聞いた。彼は係長なのだから、部下が余分な超過勤務手当を請求しないように睨みを利かす立場にある。ところが彼は自身の超過勤務手当を臆面もなく請求する。雑談で盛り上がって遅くなった場合など、部下は遠慮して申請しないのに、自分は「定時を過ぎれば残業」とばかりに厚顔無恥に請求する。

この場合、おそらく彼がまだ駆け出しの若い時代に日本の景気が良くて、上司から「残業は遠慮しないでつけていいよ」と言われた

ことがあり、それを現在に至るまで律義に守り続けているに違いないのだ。その上司の言葉を邪念なくストレートに聞き入れ、頑なに実行しているにすぎないのだ。

自閉症を理解するのにはしばしば用いられる極端な例として、忙し
いから「手を貸して」と言われた際に「はい」と大まじめな顔で手
を差し出したり、「ちよつとお鍋を見てね」と言われて、吹きこ
ぼれる鍋をじつと見つめ続けたりする。いずれも、頑なに言いつけ
を守っているのである。

そこで大切なのは、彼には発達障害がある、と認めてあげること
だ。例えば、足に障害がある人に対して「もつと早く歩けバカヤロ
ー」などとは誰も怒らないのだから。

しかし悲しいことに、彼に障害があることを誰も知らない（もし
かしたらご本人も知らない）。よって、彼が職務を果たせない分を
他の係長が補わねばならず、部下からも愛想を尽かされて同じ職場
に留まることができずに転職人生を歩んでいる。

そして三月最後の週に辞令が下りて、やはり彼はまた今年も転職
だ。この人事は半年ほど前に、堪忍袋の緒が切れた所長が本社に怒
鳴り込んで行つて「あんな役立たずはいらんから首にしる」と騒い
だ結果なのだ。

普通なら、彼が転職して行くことを職員に紹介するものだが、所
長にそのような「一人前扱い」をする気はさらさらない。ところが
ご本人はなぜ自分が邪魔者扱いされているかまるで分かっていない
ので、昼休みに、悪びれることなく話し始めた。

「お食事のところをすみません。このたびの人事で豊橋工場の製
品管理課の方へ移るようになりました。一年という短い期間でした
が、お世話になりました」

これを見た係長の一人が慌てて所長を呼びに走った。ところが所
長は彼の異動のことについてはひと言も触れず、四月から入ってくる
新人社員のことを少し話ただけで引っ込んでしまった。この一

事だけを見ても、よほど腹に据えかねていたことが推察できる。

立つ鳥跡を濁さず、という格言があるが、彼は最後の最後に、またアスペルガー症候群らしさを見せつけてくれた。

これまで職場では一食四百円のAランチサービスから弁当を取り寄せていた。そこにBランチサービスが介入してきて三百五十円で提供するという。三月末日の二日間を試食として無料で食べられることになり、その二食分のレシピが貼り出された。転勤していくその係長がしたり顔で言った。

「豪勢だなあ。『青菜とちくわのオイスター和え』と『白身魚とキノコのタルタル焼き』と『鶏もも肉のスパイス焼き』だなんて、こん調子で毎日出し続けたらすぐに倒産しちゃうよね」

彼は躊躇することなく、注文個数を取るための用紙に、自分の名を堂々と記入したのだった。

同人)
(文芸同人誌『北斗』

* 東海志にせの会 「あじくりげ」 2011年6月号 『味・シヨート・シヨート』に掲載

* 「妻は宇宙人」/ウェブリブログ <http://12393912.at.webry.info/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7138u/>

ダメ係長

2011年10月9日08時10分発行